1 これって…NIPPON?

2 ある日 魔法にかけられた!

3 四つ葉のクローバー

平成20年度 文部科学省委託
「人権教育推進のための調査研究事業」

じんけん

はじめに

人権は、人が人として幸せに生きていくために、生まれながらにして持っているかけがえのない権利です。

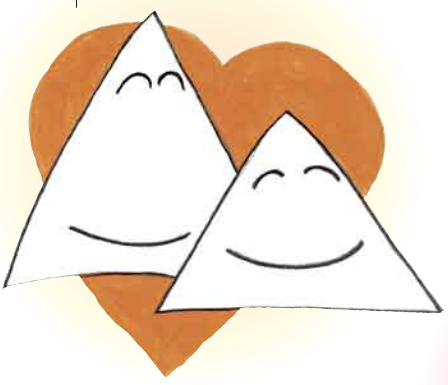
日本国憲法では、三つの基本理念の一つに基本的人権の尊重を謳い、侵すことのできない永久の権利としてこれを保障しています。しかし現実には、知らず知らずのうちにみんなと違うものへの偏見や差別意識から人権侵害が生じています。

この絵本が、そのことに気づき、人権についてさらに深く広く考えるきっかけとなることを願っています。

平成20年度 文部科学省委託
「人権教育推進のための調査研究事業」

じんけん

1 これって…NIPPON(ニッポン)?



2 ある日 魔法(まほう)にかけられた!

3 四つ葉(よつば)のクローバー

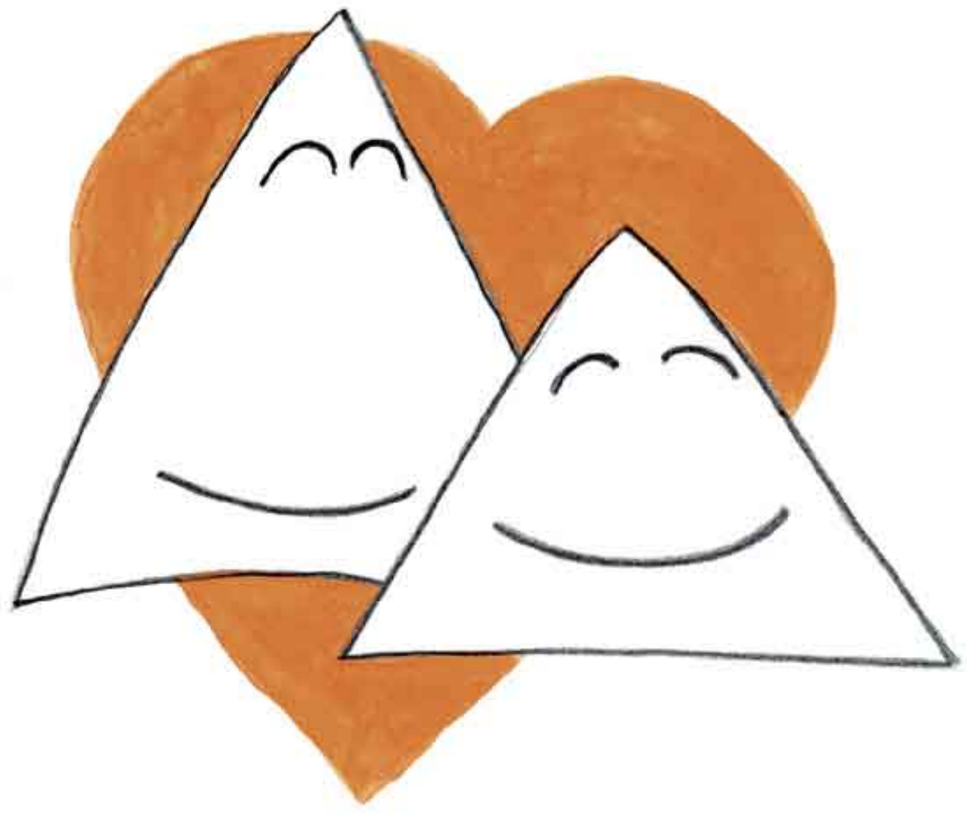
1 これって…NIPPON?（ニッポン）

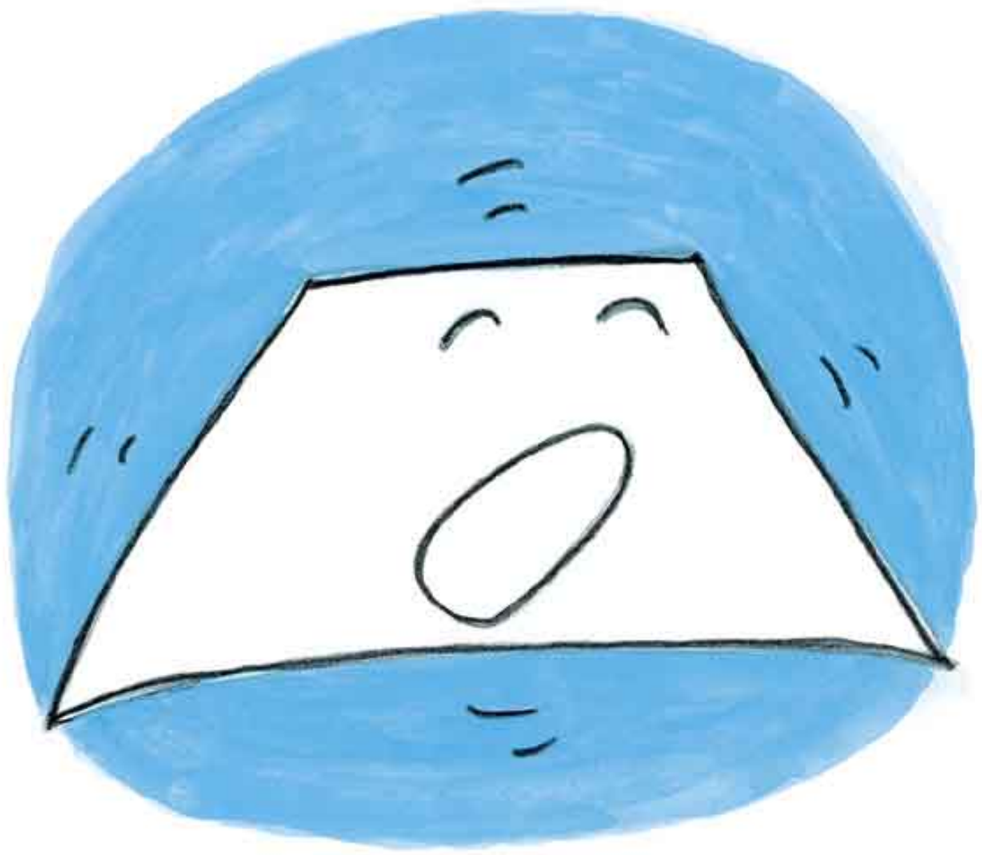
絵　小林明夫

ここは　にっぽん。しってるよね？
なんでも　「せんしんこく」と　よばれてて、
せかいで　いちばん　ながいきできる　くになんだってさ。
つまり、だれもが　あんしんして　くらせるってこと？

つい　さいきん、△（さんかく）けんに　こどもが　うまれた。

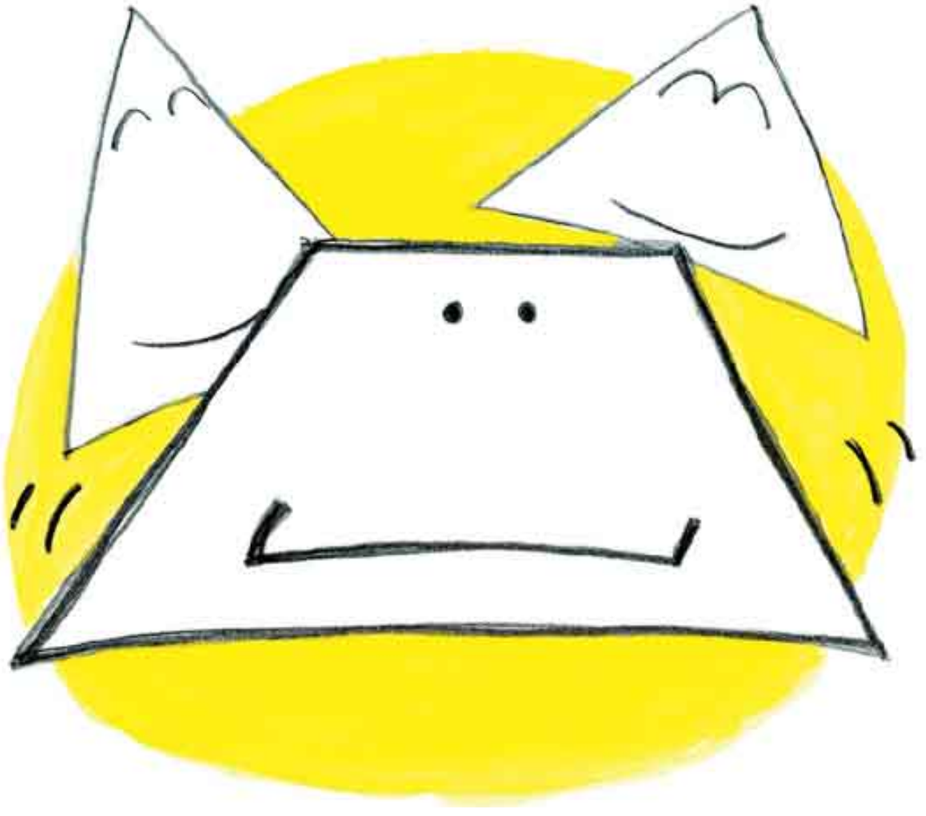
おとうさんは　△（さんかく）。
おかあさんも　△（さんかく）。
まちに　まった　はじめての　こどもだ。

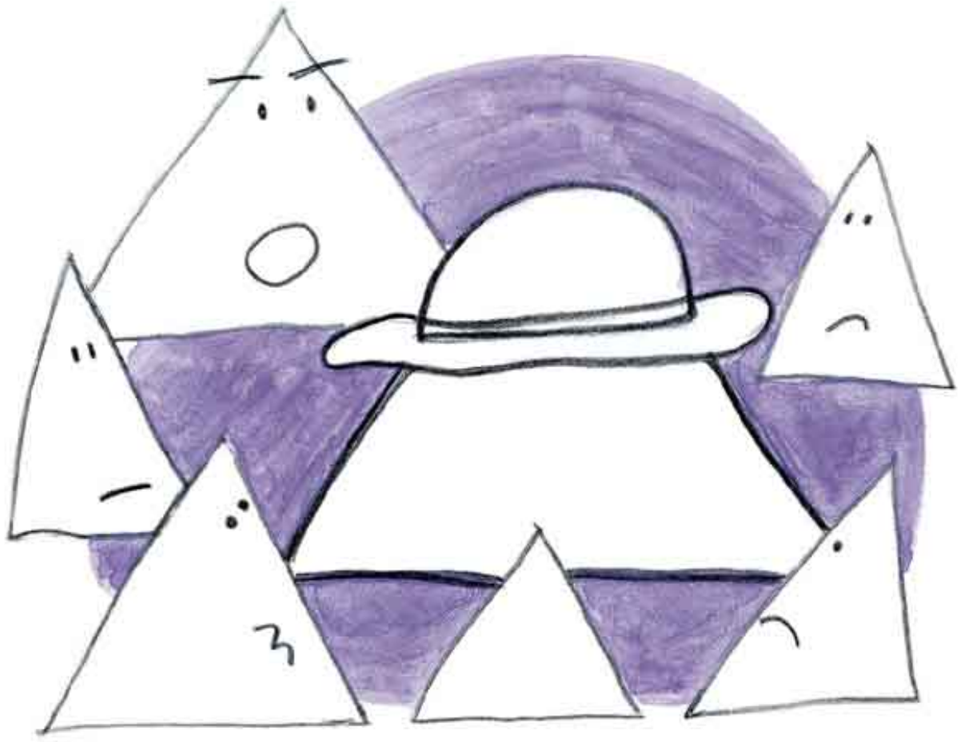




ところが
「ざんねんながら　おこさんには　とんがりが　ありません。
これからも　ずっと　できないでしょう」
「ことばも　とんがれないかもしれません」
おいしゃさんに　せんこくされてしまった。

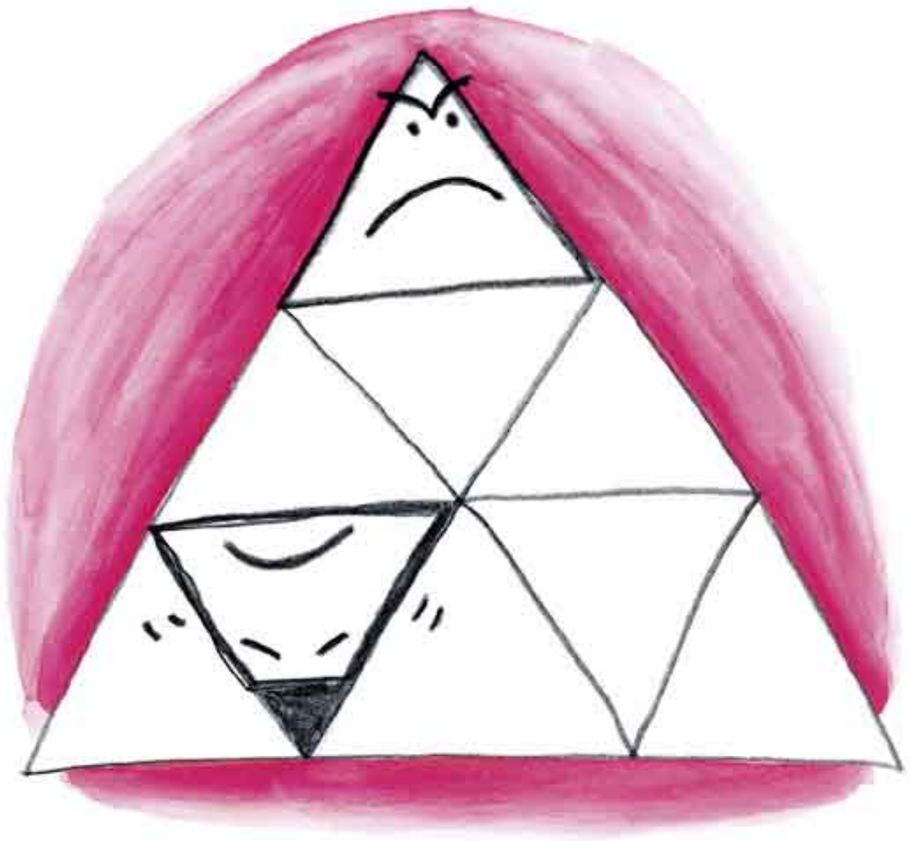
「なにが　ざんねんだ！」
「とんがりなんて　どうだって　いいじゃないか！」
こどもは　あいを　いっぱい　もらって、
すくすく　そだった。

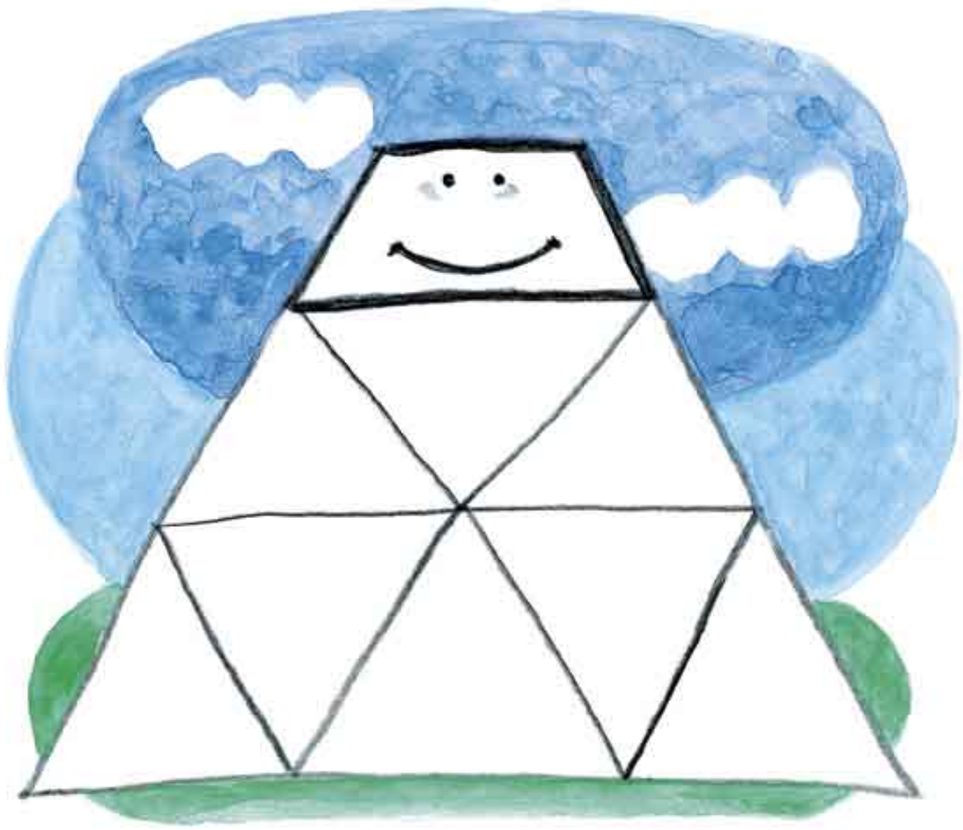




でも、△(さんかく)しょうがっこうに　はいるときには
「きみは　いつも　ぼうしを　かぶってなさい」
なんて　いわれたりして……
わけを　たずねると
「だって、みっともないだろう」
「いじめられたら　どうする？」
だってさ。

とんがりが　ないからって、
うんどうかいの　ピラミッドなんかも
いつでも
したの　やくばかり。

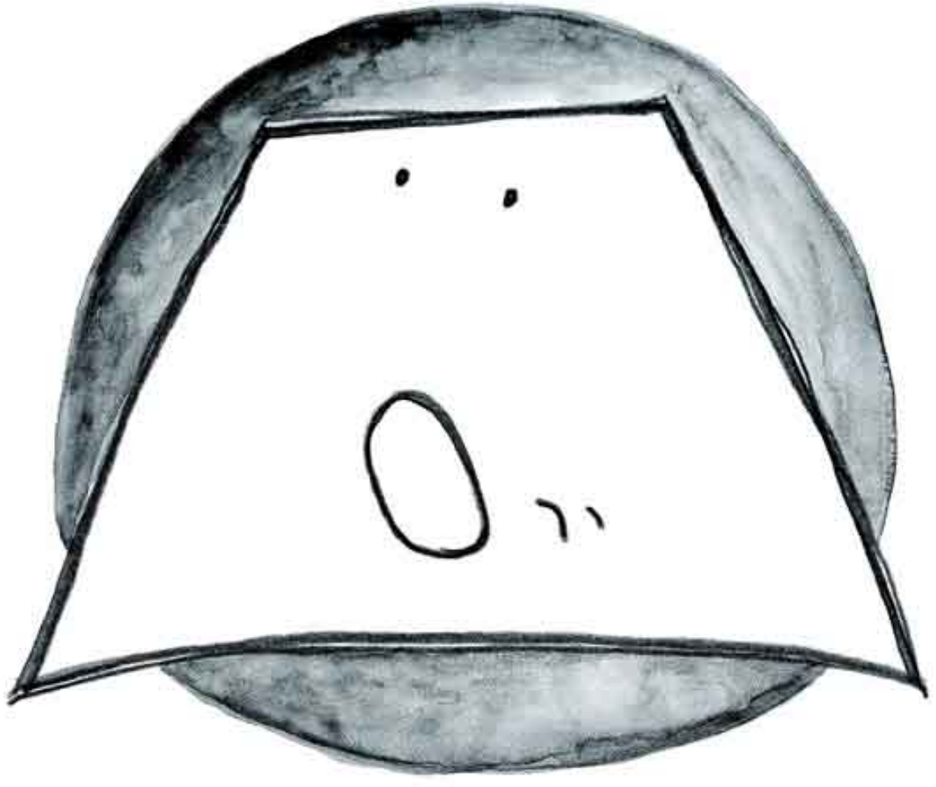




ふじさんみたいで
かっこいいと　おもうんだけど

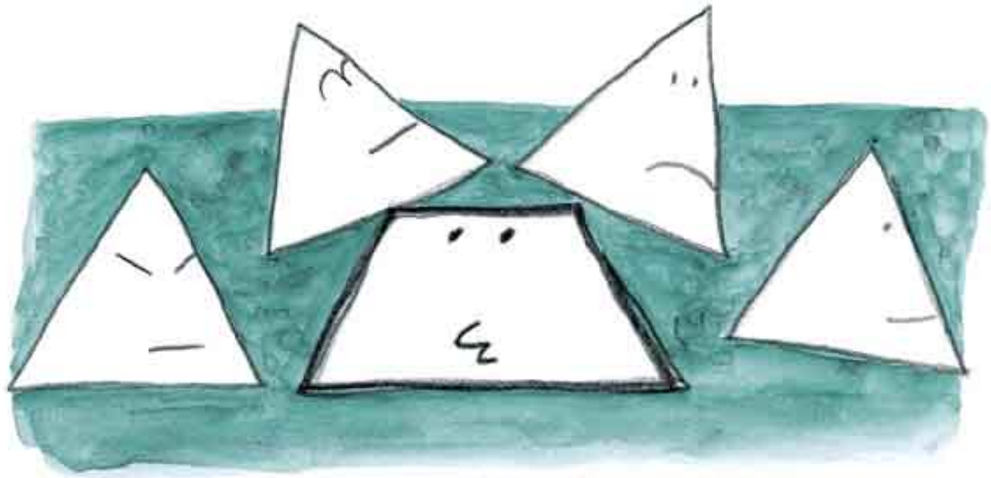
みっともないのかなあ。

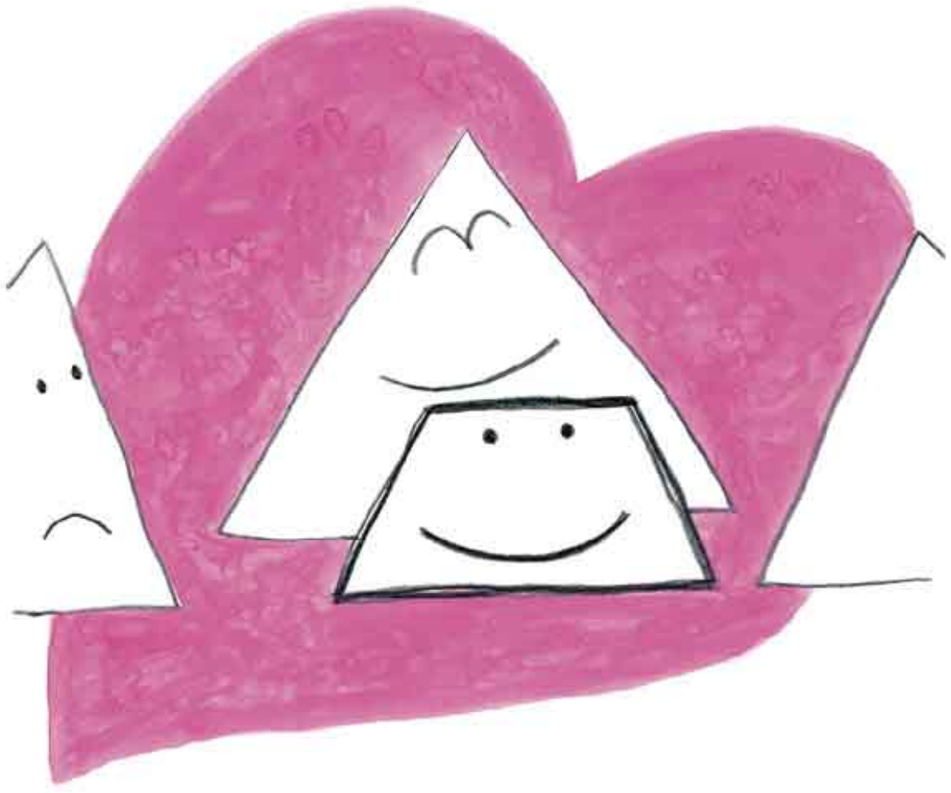
はずかしいのかなあ。



まちでの　かいもの。
ちいさいけど　よく　しっている　おみせの、
おじさんや　おばさんは
さいごまで
ぼくの　かいものを　みまもってくれる。

けれど、
おおきな　おみせは　にがて。
レジでは　ちっとも　ぼくの　ばんが　こない。
とんがりが　ないから、
ならんでるのに　のりこしていくんだ。
ぼくは　ことばも　とんがれないしね。

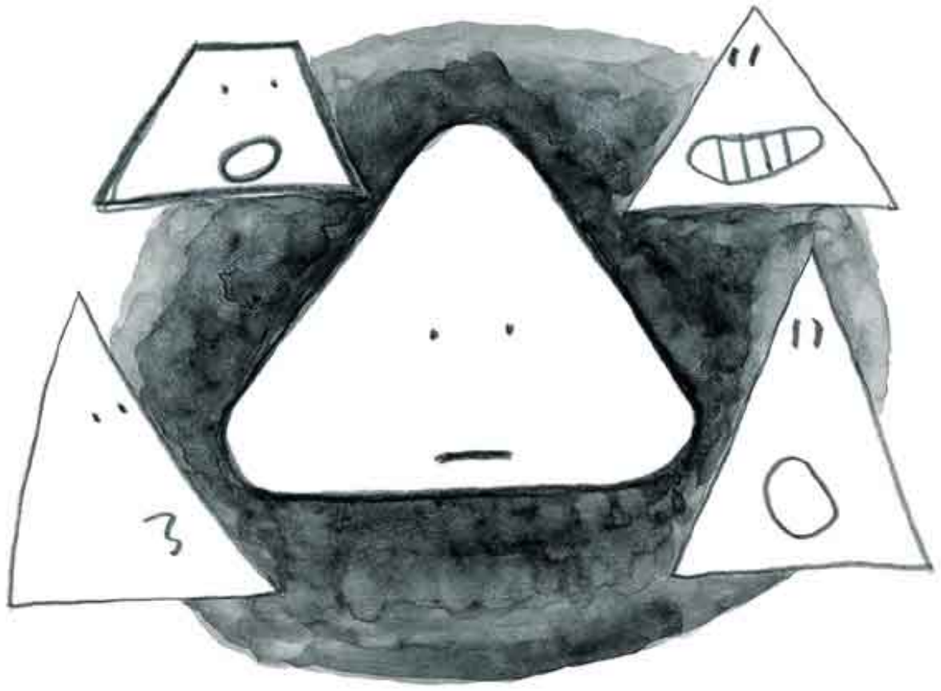




「わたしが　かわりに　とんがってあげるね」
けっきょく、だれかが　たすけてくれて、
ぼくの　かいものは　せいこうするんだ。

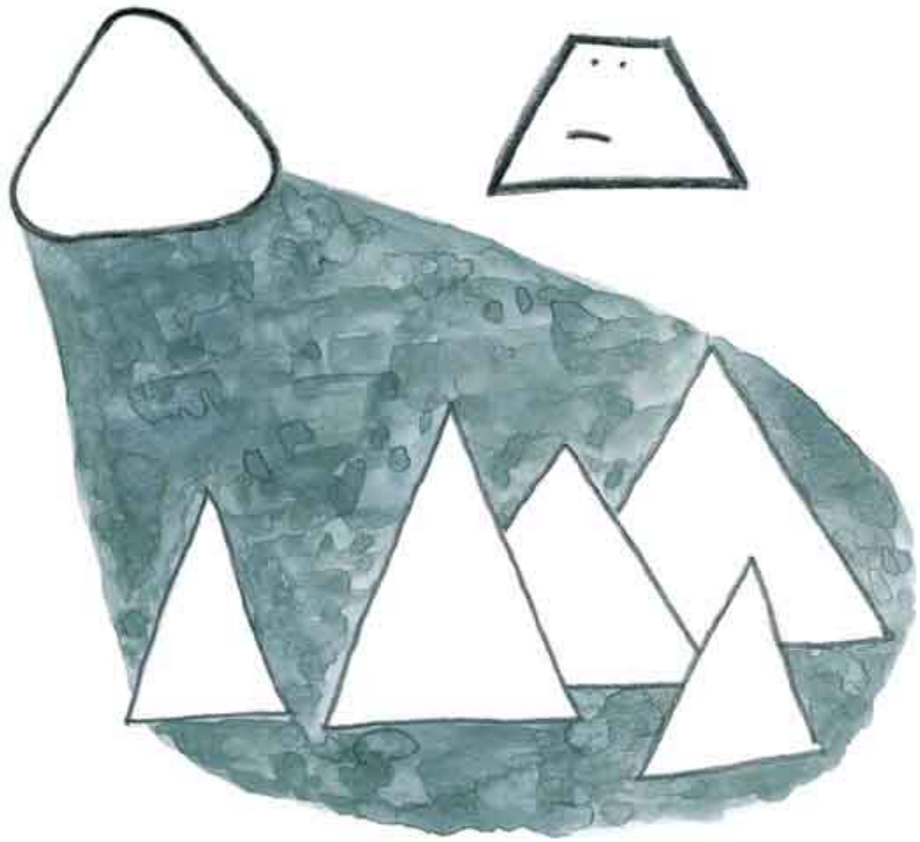
けど　そんなときは　いつだって　しあわせ。
「ありがとう！」

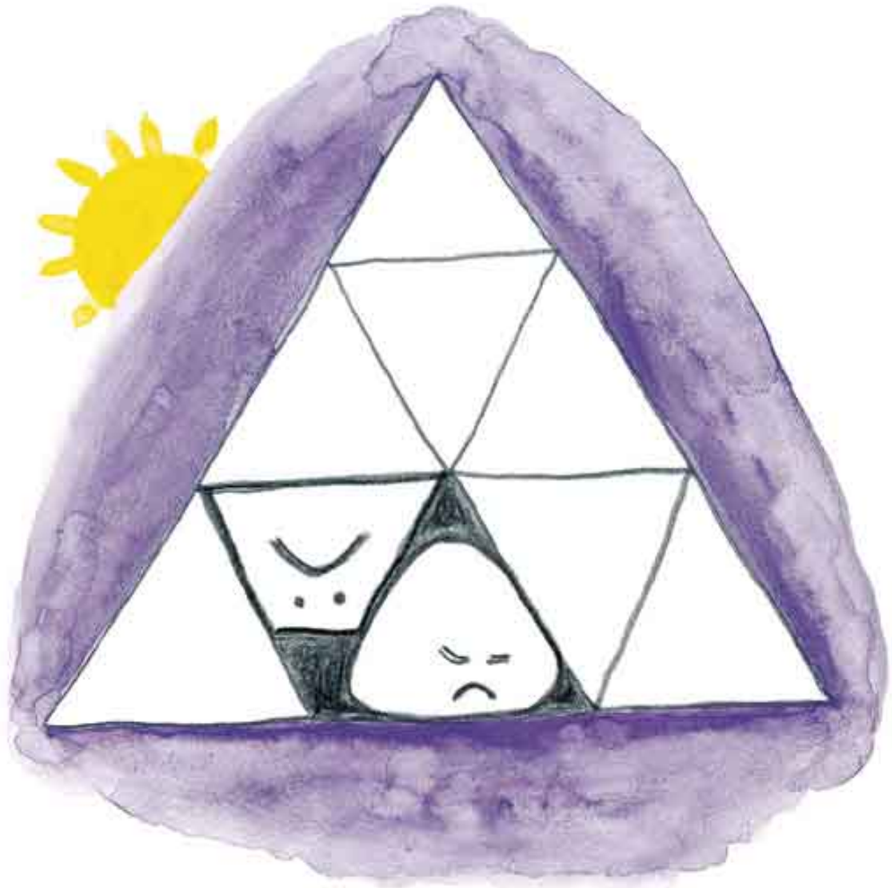
６ねんせいの　なつやすみ。
がっこうで　いちばんの　とんがり　△（さんかく）くんが
かわで　おぼれて、うみまで　ながされて、
で、たすけられたという
たいへんな　じけんが　あった。



かわぞこを　ころがるうちに、
あんなに　りっぱだった　とんがりが
ぜーんぶ　なくなっちゃって、
おにぎりに　なってしまった。

とんがりは
もう
なおらないんだって。



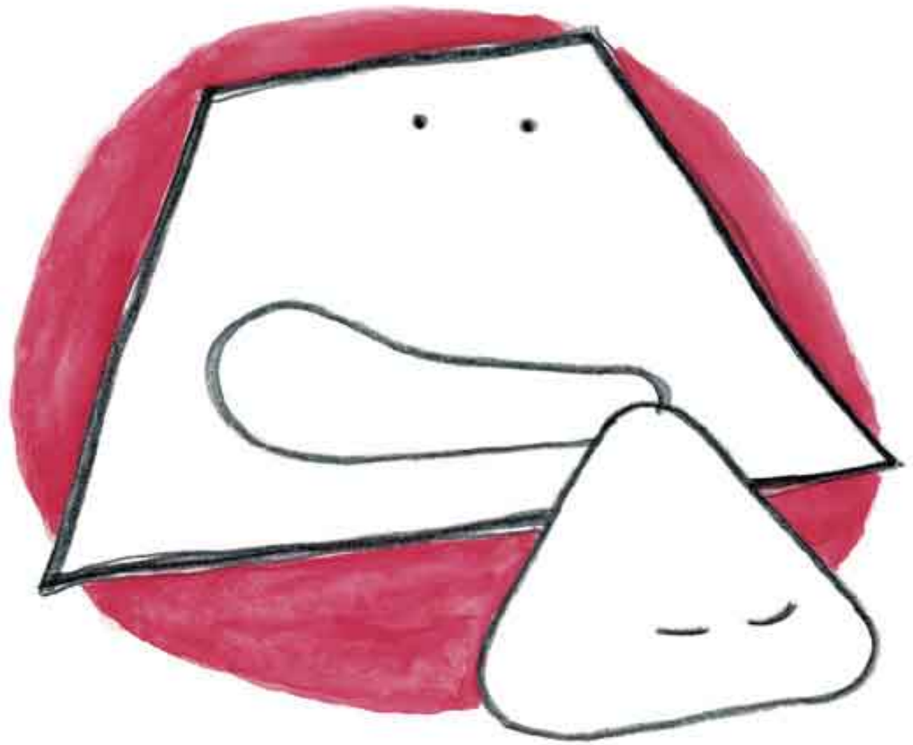


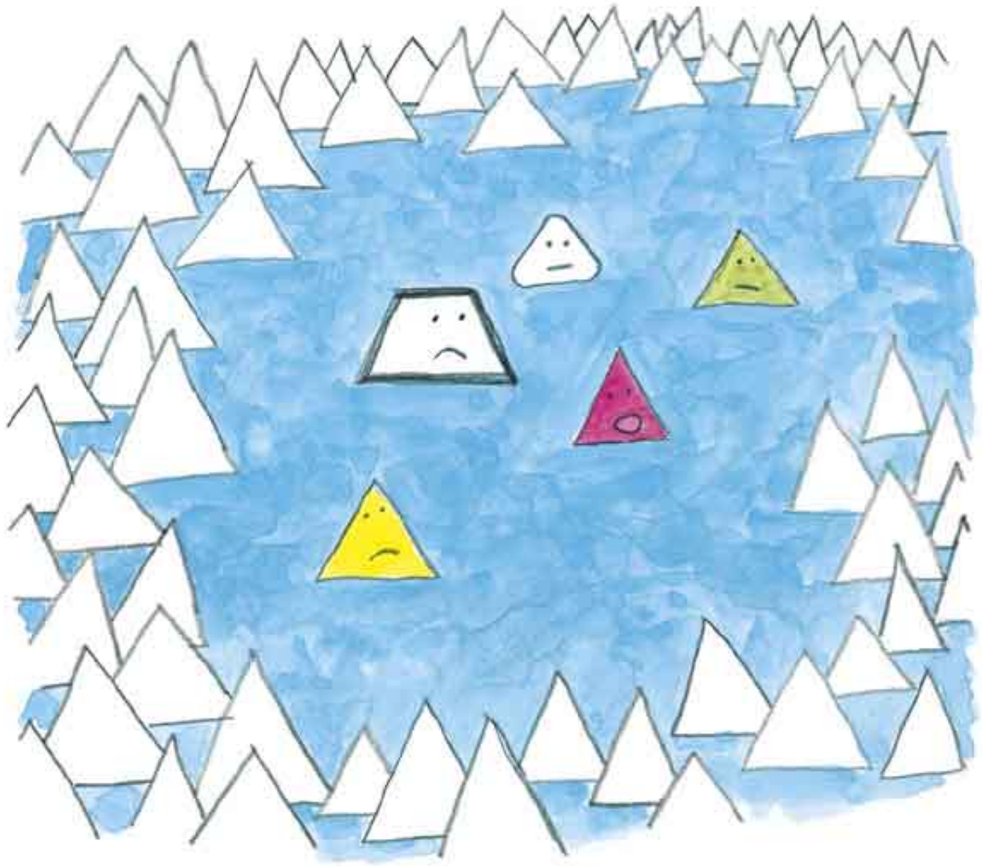
さいごの　うんどうかいのとき、
かれは　となり。

なにかを　じっと　がまんして、
ひとことも　しゃべらなかった。

あ　あのさあ。
ぼくなんか　うまれたときから
がまんしちゃったり、きを　つかっちゃったりして……

でもさ、
あは。



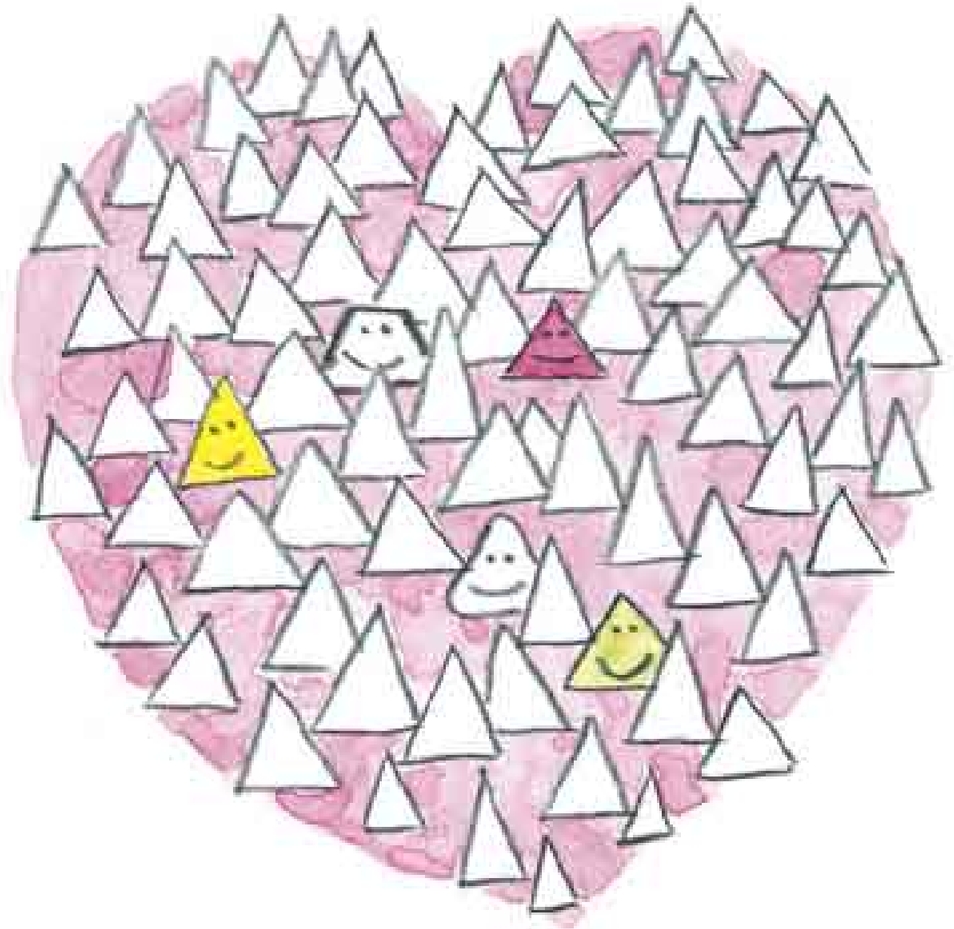


これって…NIPPON?

せんしんこく?

こうでなくっちゃね。

NIPPON!

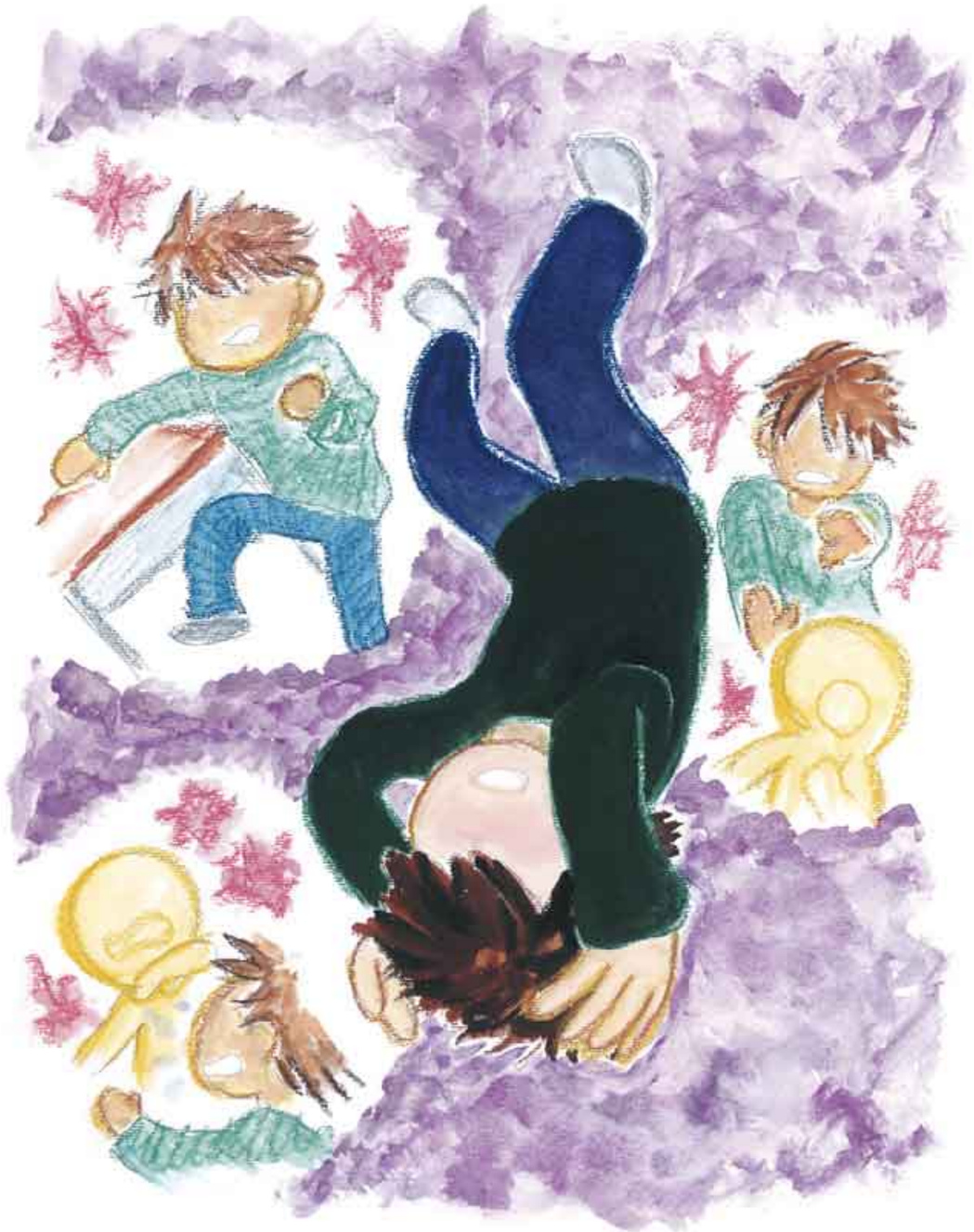


2 ある日 魔法にかけられた

絵□ 大羽彩加

これは　ほんとうに　あった　話だ。
主人公は　小学生の　男の子で、どちらかというと、まじめな　性格。
運動が　大好きで、特に「野球」って聞くと、
目が　きらっと　光って、真けんモードに　入っちゃうんだ。
あっ、それから、ぱくぱく　ぱくぱく　すっごく　食べる。
きらいな　にんじん　以外はね。
名前は　ゲンキ。
お父さんも　お母さんも、
おじいちゃんも　おばあちゃんも、
おまけに、おじさんや　おばさんまで、
ああだの　こうだのと、真けんに　話し合って　決まったらしい。
だから「元気　いっぱいで、幸せ　いっぱいに　なりますように」って　願いが、
いっぱい　つまっている　名前なんだ。
ま、みんなだって　そうだよね。

「あー！」
それは、ある日　とつぜん　起こった。
「あー！」「あー！」「あー！」
なぜか　声が　出てしまう。まちがいなく　自分の　声だ。
それも　やたら　でかい。
「なんだよ、これ」
ゲンキは　困った。だって　授業中なんだ。
「やめろ。やめるんだ」
ゲンキは　自分に　言い聞かせながら、力を　こめて　口を　ふさいだ。
ところが、
ガッターン！　「あー！」
「なんで　ボク、立ち上がってんだ」
「うるさい！」「こら、ゲンキ！」「やめてよ！」
いろんな　声が　耳に　入って　きたけれど、
ゲンキは　もう、それどころじゃない。
自分の　体に　何が　起きたのか　びっくりして、
筆箱も　ランドセルも　そのままにして、家に　逃げ帰った。

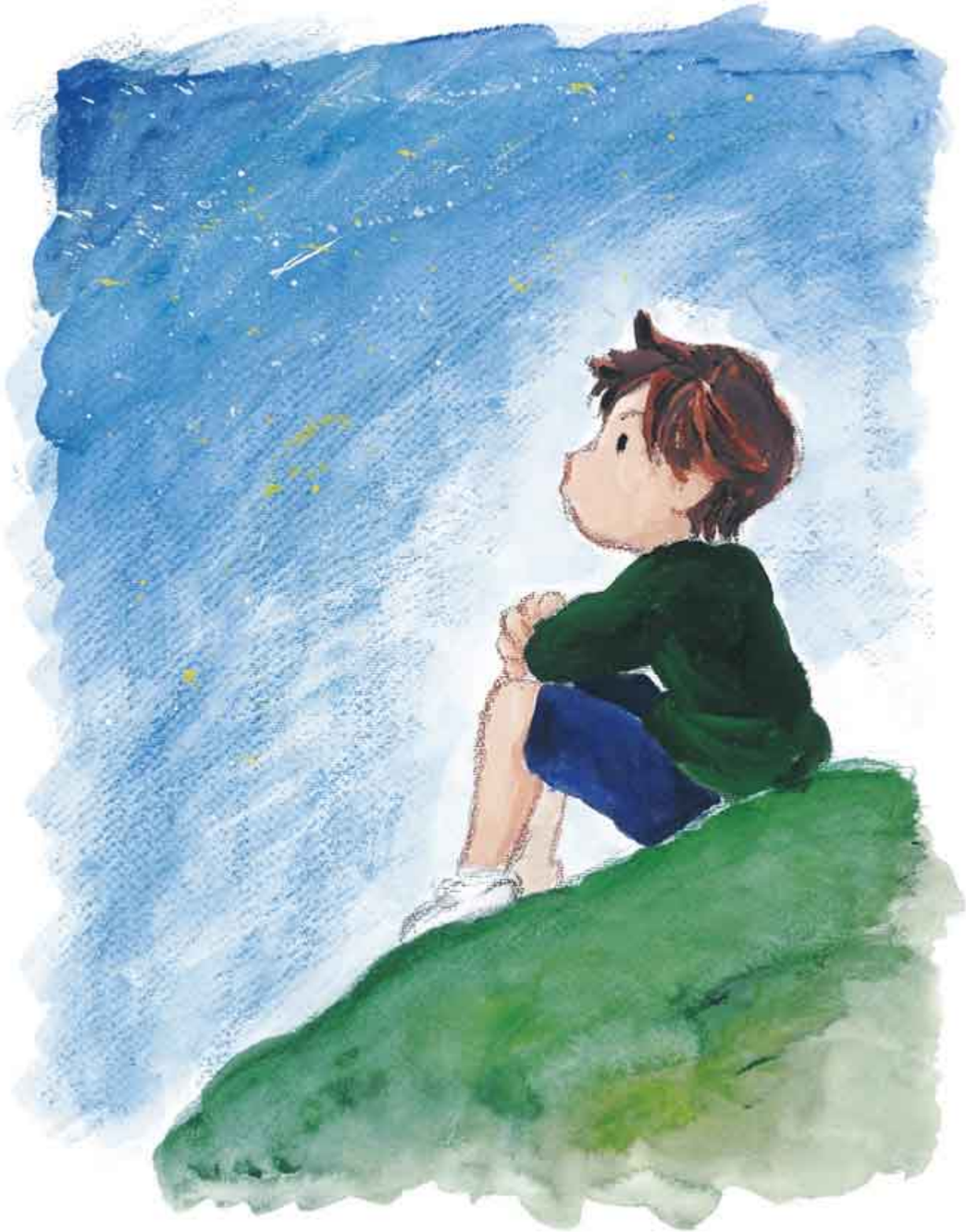


その日から　毎日　まいにち、家でも　学校でも　どこでも
ゲンキの　体は、かってに　動き出すように　なった。
それも　ますます　エスカレートして　いった。
まるで　体に　魔法を　かけられたようにね。
急に　ジャンプして　机に　ぶつけちゃったり
友達に　ぶつかって　ころばしちゃったり
ぺっ！
空に　向かって　つばを　はいちゃったり。
「なに　やってんだよ」「きたないじゃないか」「危ないだろう」
みんなの　言うとおりだと、ゲンキも　思った。
でも　ゲンキは、かってに　動いてしまう　自分の　体が
悲しくて、こわくて、おこれて…
だから　けんかにも　なった。

ある時、ゲンキは　朝から　気合いが　入っていた。
体育で　サッカーが　始まるからだ。
「今日は　絶対に　変な　声を　出さないぞ！」
ところが、ゲンキが　声を　出しちゃ　ダメと、思えば　おもうほど、
「あー！」「あー！」「あー！」
体が　ひねって、大きな　声が　出てしまい、もう最悪。
あとは　ジャンプ、つばはき‥‥次から　つぎへと　止まらない。
おまけに、「ばかやろ」「ばかやろ」なんて　ことばまで　出てしまう。
結局、みんなが　ゲンキの　ことを　さけるようにして、
サッカーでは、ボールを　ほとんど　持てなかった。
かってに　動く　体と、それを　止められない　自分と、けんかしちゃう　自分と
サッカーが　できなかった　自分に　腹が　立って、

ゲンキは　こわれて、いかりを　ばく発させた。
家に　帰ると、くつも　ランドセルも　投げ捨てて、
ぐっと、お母さんを　にらみつけた。
そして、お母さんに　なぐりかかって　いった。
「なんで　僕だけ　こう　なったんだ！」
大声で　泣きわめきながら、何度も　なんども　なぐりかかった。
お母さんは　決して　ひるまなかった。
けれど、ゲンキを　かかえこむ　大きな　うでは、こきざみに　ふるえて　いて、
目には　涙が、いっぱい　たまって　いる　ことを
ゲンキは　見逃さなかった。
ゲンキは　泣いて　ないて、涙を　いっぱい　流しながら、
お母さんの　どっしりとした　おだやかな　優しさに　包まれた。
時間が　たつと　不思議な　ことに、自分の　体から、いかりとか　いらだちが、
すうっと　消えて　いくのを、ゲンキは　感じた。
ゲンキは　一人　旅立つ　ことを　決心した。
もちろん、自分に　かけられた　魔法を　解くためにね。

遠い　東の　病院で、ゲンキは　心静かに　のんびりと　過ごす　ことを　覚えて、
ありのままの　自分を　見つめる　ことが　できるように　なった。
それから、西の　病院に　移って、
かけられた　魔法を　少しずつ　解いて　いく　練習を　始めた。
ミッドランドスクエアみたいな　超高層ビルを、階段で　上るように
一歩　いっぽ　ふみしめてね。ゴールに　近づくほど　大変なんだ。
くじけそうに　なると、みんなが　はげまして　くれた。
「たいへんやなあー」
「よお、がんばっとるなー」
「だいじょうぶや！　きっと　よく　なる」
こつこつと　あきらめず　努力すれば、きっと　できるという　確信と、
いっぱいの　愛を　もらって、ゲンキは　自分を　取りもどす　ことが　できた。



ゲンキは　学校に　帰って　来た。
まだ　魔法が　解けた　わけじゃない。
でも、今度は　自分の　体を　少しずつ　コントロールできるように　なっている。
そして、とにかく　大好きな　野球が　できるんだ。
ゲンキは　少し　魔法に　勝てるような　気が　した。
「こしを　落とせ！」「ボールから　目を　はなすな！」「集中しろ！」
野球は　甘くは　ない。練習では　きびしい　言葉が　飛んでくる。
実は　初めの　ころ　外野の　守備に　つくと、グラブを　放り上げていた。
でも、プレーに　えいきょうしない　限り、決して　注意される　ことは　なかった。
だから、「ばかやろう！」と　どなられても　がんばれたし、
プレーに　夢中に　なって　集中してると、
ゲンキの　体は　かってに　動かない　ことが　わかって　きたんだ。
「ドンマイ　ドンマイ」「ゲンキ　リラックス」
仲間に　はげまされて、
今では　ホームランだって　打てるし、ファインプレーだって　できる。
ゲンキは　ドラゴンズの　6番、井端選手に　あこがれて　いるんだって。

つい　この前の　運動会。
ゲンキは　2年　連続で　器具係だった。
去年は　きん張しすぎて　失敗ばかり。
だから、少し　自分を　見失って、体が　動きまくって　しまった。
けれど、今年は　ちがった。
やっぱり　きん張は　してたけれど、なんとか　責任を　果たせたと　思えた。
それから　ゲンキは　運動会の　クライマックス、
地区別リレーの　選手にも　選ばれた。
ゲンキの　地区は　2つの　チームが　出場する。
ゲンキは　Bチームの　選手だったけれど、決勝に　残ったんだ。
そして　決勝。ゲンキは　アンカー。どきどきする。
来た！　トップだ。　バトンが　わたされた。
「ゲンキ！　がんばれ！」「ゲンキ！　がんばれ！」
いっぱいの　応えんに　おされて、
ゲンキは　必死で　ゴールを　かけぬけた。
ゲンキは　優勝テープを　切れず、2位だった。
でも、ゲンキは　うれしかった。
なんと　1位は　同じ　地区の　Aチーム。
「やったあ！」「すっげえ！」
ゲンキは　力いっぱい　ガッツポーズを　とった。
そして、魔法に　勝てたと　思った。

ゲンキの　ことで　言い忘れた　ことが　ある。
これは　オフレコ。彼に　聞かれると　まずい。
ゲンキは　ダジャレ好き。
「この　コンニャク　こんにゃ　くう？」
ほんとうに　へたなんだけど、人を　笑わせるのが　大好きな　明るい　やつ。
だけど、気が　小さい。
しなくてもいい　心配を　やたら　するんだ。
ああでもない　こうでもないってね。
ゲンキの　魔法は　まだ　解けない。
だから　いっぱい　失敗を　するけれど、
失敗は　成功の　もと。
なんでも　明るく　チャレンジできれば、
もっと　魔法に　勝てると　思うんだけどね。
ちがうかなあ。
これ、ゲンキには　内しょだよ。

ふんわり　ふわわ
やわらかな　風(かぜ)が　吹(ふ)く。

青(あお)い　月(つき)の光(ひかり)に　てらされて、
一枚(いちまい)の　クローバーが　手(て)を　ひろげました。

3 四(よ)つ葉(ば)のクローバー

絵□ おりとひろみ

キラキラ　かがやく　陽の光を　あびて、
四つ葉は　グングン　大きく　なりました。

お友達も　できましたが、
「なんで　手が　四つあるの？」
「おまえは　みんなと　ちがって　変だなぁ」
「そんなんじゃ　首飾りにも　なれないぞ」
と、みんなが　言うので、
四つ葉は　悲しく　なってしまいました。

次の朝、
目を　覚ました
お父さんと
お母さんは　ビックリ。

いち、にい、さん…よん？

「あら、この子、手が　ひとつ　多いわ」
その子には、小さいけれど、
しっかりとした　手が　四つ　あったのでした。

ある日、青虫が　やってきました。
かたく　手を　にぎった　四つ葉を　見て、
「どうしたの？」と　聞きました。

バッタと　てんとう虫も　やってきました。
「手を　けがしたの？　具合が　わるいの？」と　心配そうです。

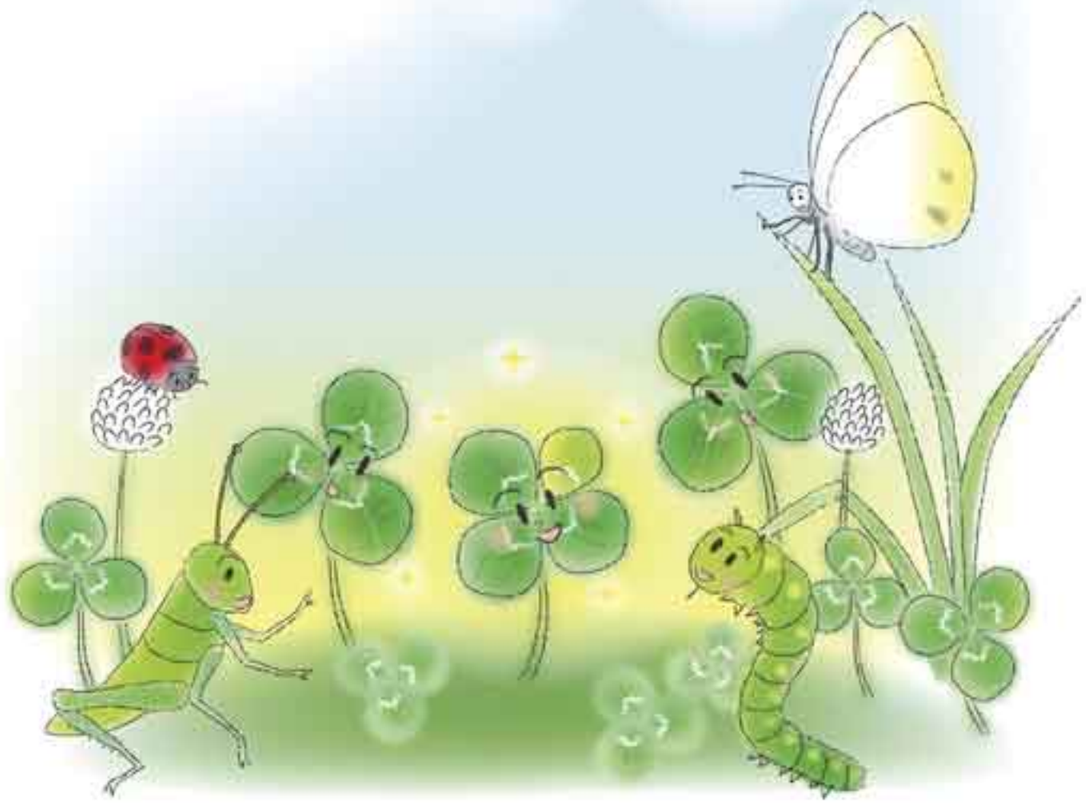
ふわ　ふわ　ふわり。

そこに　チョウチョが　舞いおりて、
「ねぇねぇ、聞いて！
人間の　世界では、
四つ葉の　クローバーって
幸せの　お守り　なんだって！」

それを　聞いた　四つ葉は、
そおっと　手を　開いて　見せました。

いち、にい、さん…よん！

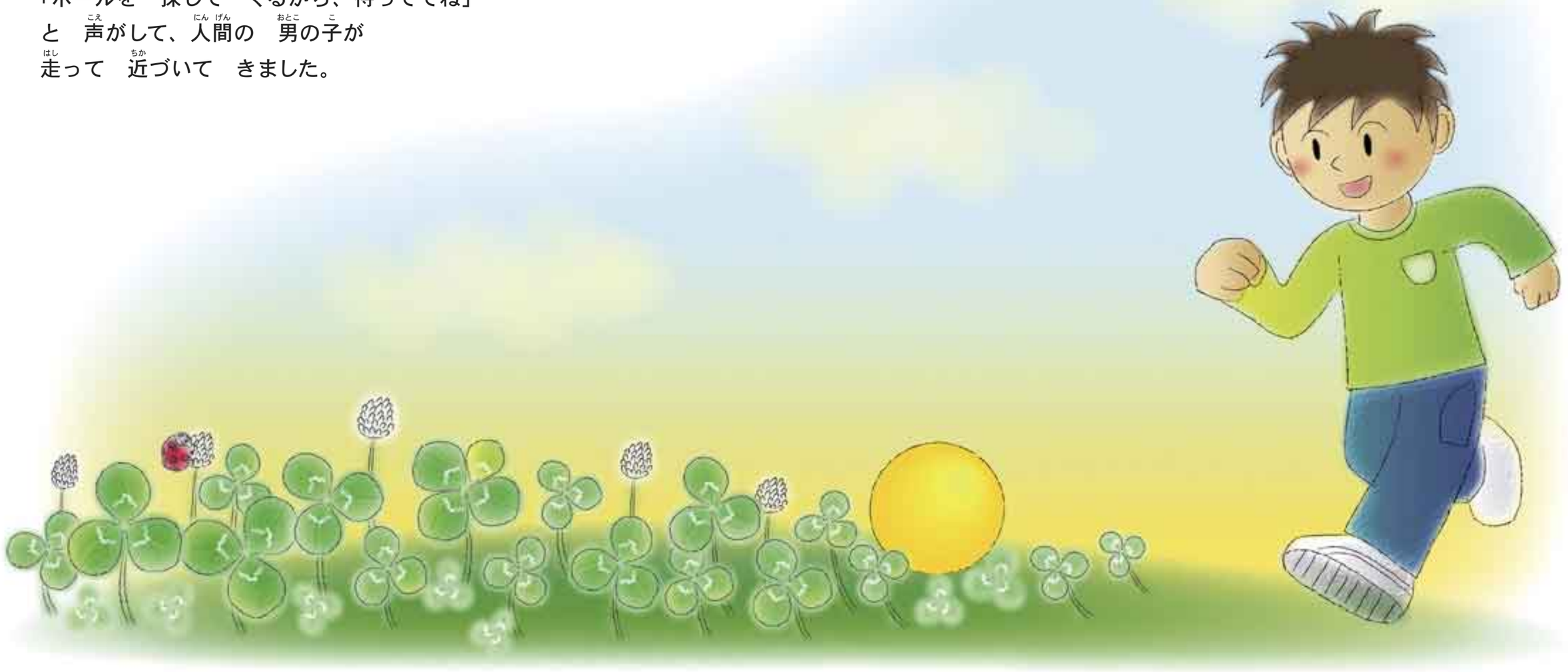
ボクだって　誰かを
幸せな　気持ちに　できるんだ！
そう　思ったら、　不思議と　元気が　出てきました。



コロ　コロ　コロ…。

ある日の　夕方、ボールが　転がって　きました。

「ボールを　探して　くるから、待っててね」
と　声がして、人間の　男の子が
走って　近づいて　きました。



男の子が　ボールを　探して　いると、クローバーの　中で、
一つだけ　輝いて　見えた　葉っぱが　ありました。

「あれ？　何か　光って　見えたんだけど…」
その　あたりを　もう一度　探してみると、

「あー！　お父さん。四つ葉の　クローバーを　見つけたよー！」

「すごいじゃないか！
四つ葉の　クローバーは、
幸せの　お守り　なんだよ」
と　お父さんが　教えて　くれました。

「じゃあ　ぼく、
お母さんに　プレゼントする！」

「四つ葉って、
みんなと　ちょっと　違うんだ。
ぼくと　同じだね」

男の子は、
大切そうに　四つ葉の　クローバーを
にぎりしめて　帰って　行きました。

「ただいまぁ、お母さん！　プレゼント！」

男の子は、小さな　手を
そおっと　差し出しました。

「あら。何かしら？」

お母さんが　やさしく　手を　開くと、
そこには　四つ葉の　クローバーが
ありました。

「まぁ。四つ葉の　クローバーね！
ありがとう。宝物にするわ」

お母さんは、やさしく　抱きしめて　言いました。

男の子は、お母さんの
甘い　かおりに　包まれて、
とっても　幸せな
気持ちに　なりました。

そして、心の　中で　言いました。
「本当はね、あなたたちが　いてくれる　だけで、
幸せなのよ。だって、あなたたちが、
私たちの　四つ葉の　クローバー　なんだから」

生まれてきてくれて、
本当にありがとう。

あとがき

「これって…NIPPON?」

とんがりのない△君。お医者さんや学校では「ざんねんですが」「みっともない」と言われたり、差別的な扱いをされたりします。これは人々の心の中に「みんなと同じを良しとし、違うものを認めたくない」という意識があるからではないでしょうか。一方、両親は「とんがりなんてどうだっていいじゃないか」とたっぷりの愛で育てます。かけがえのない命、障害の有無なんて関係ないのです。

よく行くお店のおじさん、おばさんは、△君のことをよく知っています。だから、買い物も困りません。苦手な大きなお店でも、助けてくれる誰かがいれば大丈夫。とんがりがなくても、周りからの理解や適切な支援があれば、幸せに生きることができるのです。障害の本質は「その人が感じる生きづらさ」であり、社会のありようによって、それは重くも軽くもなります。障害は個人の問題ではなく、社会の問題であり、社会を構成しているすべての人の問題なのです。また、おにぎり君のように生まれてから事故にあったり、病気あるいは加齢によっても障害を負ったりすることを考えると、障害は決して特別なことではなく、誰にでも起こり得る身近な問題と言えます。つまり、人権侵害は決して遠い他人事ではないのです。

私たち一人ひとりが、命を大切に思い、互いの違いを認め、理解し、ともに協力して生きていく姿勢をもつことが必要です。たとえささやかであっても、誰しもが豊かで幸せな人生を重ねていくことができる、そんなNIPPONでありたいものです。

「ある日魔法にかけられた」

主人公のゲンキは、トゥレット症候群です。トゥレット症候群とは、小児期に発症し、運動チックと音声チックを主症状とする脳機能、神経の病気です。そして脳の発達に関係が深く、常に病状は変化します。チック症状ですから、決して故意に動いたり声を出してしまったりするのではありません。自分の意識とは関係なく、時には正反対に身体が行動してしまうのです。現実には授業にも集中できず、さまざまな誤解から人間関係にも支障をきたして不登校になってしまうとか、強迫障害とか、睡眠障害、気分障害、不安障害というような二次的障害が次々と起きてくることになるのです。

ゲンキは自分の意思と自分の身体とのギャップに、自分の身体が引き起こしてしまった社会的現実とのギャップに、「自分が壊れてしまう」事態に直面してしまいます。伸びのびと成長を遂げていく子ども時代に「自分が壊れる」危険性にさらされるのです。そしてトゥレットの子どもたちに限らず、ADHD(注意欠陥多動症候群)、アスペルガー症候群など発達障害といわれる多くの子どもたちは、多かれ少なかれ、自我の危機を経験してしまうのです。そんな時、子どもたちを支えるのは、やはり「愛」なのです。どんな症状が現れようが、ありのままを受け入れてくれる愛、共に歩んでくれる愛、いつでも励ましてくれる愛、一緒に笑ってくれる愛。愛情に満ちあふれた環境が子どもたちの自我を守り、育むのです。

「四つ葉のクローバー」

四つ葉は、クローバーの社会では、葉が 1 枚多いために「変だなあ」と言われ、悲しい思いをしていました。でもチョウチョの励ましで、自分でも誰かを幸せにすることができると、自信を持てるようになりました。男の子が四つ葉のクローバーを差し出す場面に「はっ」とされた方もいるでしょう。そこには、私たちとは違った手が描かれています。男の子は、四つ葉のクローバーと同じで、みんなとは少し違っているのです。四つ葉のクローバーは、変種であるにも関わらず、人間の社会では「幸せのシンボル」とされています。それなのに、なぜ人間は多くの人と違った形で生まれてくると、その姿を「奇異」と感じてしまうのでしょうか。差別は、多数者が普通で少数者は異常と考えてしまう視点からも起こります。この物語は、そんな私たちの心の中にある、気づきにくい差別の感情に問いかけをしています。そして、たとえみんなと違っていても、誰もが、かけがえのない大切な愛しい存在であることも伝えています。

田原人権ファンクション委員会

田原人権ファンクション委員会は、障害児の保護者、田原市手をつなぐ育成会、障害福祉事業所、田原市教育委員会などに所属する13名で構成されています。すべての人々の人権が尊重され、差別や偏見のない社会の実現を願い、平成20年度、文部科学省の委託事業「人権教育推進のための調査研究事業」として、障害者の人権擁護のための教材となる絵本を作成しました。

平成20年度 文部科学省委託
「人権教育推進のための調査研究事業」

じんけん

2009年2月11日　初版　第1刷発行

文◉田原人権ファンクション委員会
絵◉小林明夫、大羽彩加、おりとひろみ
発行◉愛知人権ファンクション委員会
田原人権ファンクション委員会（田原市教育委員会内）
〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30番地1
TEL●0531-23-3531／FAX●0531-22-3811
印刷◉共和印刷株式会社
〒441-8042 愛知県豊橋市小池町36-1
TEL●0532-46-3281／FAX●0532-46-3285

◉絵本制作メンバー
川口侃（委員長）、小林明夫、明石明子、石川祐子、
大羽彩加、緒方幸枝、折戸裕美、北原初代、小久保悦子、
菰田尚史、鈴木照美、細井美加子、間瀬勝哉、村瀬妙子、
諸橋幸子